

慈恩塔に題す
(荊叔)

漢国 山河 在り

秦陵 草樹 深し

暮雲 千里の 色

処として 心を 傷ましめざるは 無し

漢國山河在 秦陵草樹深
暮雲千里色 無處不傷心

解説 大雁塔から四方を眺望して時世を歎いた詩。

語釈 ※慈恩塔Ⅱ長安の南にある慈恩寺の境内にいまも残る七層の仏塔。大雁塔のこと。※秦陵Ⅱ秦の始皇帝の陵墓。
※暮雲Ⅱ夕暮れの雲。※千里色Ⅱはてしなく空をおおう雲の色。

通釈 このあたりは、曾て漢の国都があったところ、山や河は昔のままに残っている。秦の始皇帝の陵墓は草や木が生い茂っている。夕暮れどきの雲は、千里の果てまでも覆い、どこもかしこも、心を傷ましめないところはない。